

講義コード	3A017021
講義名	スポーツリハビリテーション実習
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
科目分類・分野名	総合領域
科目ナンバリング	A3-2621
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 内田 靖之	指定なし

#### 担当教員

増田 研一・中尾 哲也・吉田 隆紀・山口 由美子・寺岡 祐助

#### 目的

リハビリテーション関連科目の講義で学んで得た知識を対象者に指導／実践を行えるようになること。

#### 到達目標

傷害発生時点から競技復帰までのアスレティックリハビリテーションのプログラミングやその実施を実践応用する。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. アスレティックリハビリテーションの考え方
2. 運動療法の基礎知識
3. 物理療法の基礎知識
4. 補装具の使用に関する基礎知識
5. 外傷毎のリスク管理に基づいたアスレティックリハビリテーションのプログラミングと実践
6. 競技種目特性に基づいたアスレティックリハビリテーションのプログラミング

#### 成績の評価

実習への取り組み度、デイリーレポート、発表・プレゼンテーションなどを総合して評価する。

#### 自己学習

授業1コマについて0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

#### 履修上の注意

遅刻や欠席は原則的に認められない。日本体育協会公認アスレティックトレーナー専門科目である。

#### テキスト

「日本体育協会公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ～Ⅲ」、「公認アスレティックトレーナー専門テキスト①～⑨」（日本体育協会）

#### 参考資料

適宜、指示する。

#### オフィスアワー

9:00-12:00

火曜日 (内田)  
月曜日 16:30-18:00、火曜日 15:00-17:00 (吉田)  
月～金曜日 12:00-13:00 (中尾)  
月～木曜日 12:10-13:10、16:20-17:00 (山口) ※あらかじめアポを取ること。  
水・金曜日 12:10-13:10 (寺岡)

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟3階311研究室、uchida@kansai.ac.jp (内田)  
診療・研究棟4階412研究室、nakao@kansai.ac.jp (中尾)  
診療・研究棟3階305研究室、t.yoshida@kansai.ac.jp (吉田)  
診療・研究棟4階415研究室、yumiko@kansai.ac.jp (山口)  
診療・研究棟3階教員室、teraoka@kansai.ac.jp (寺岡)

講義コード	3A022021
講義名	スポーツ現場実習
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
科目分類・分野名	総合領域
科目ナンバリング	A3-2620
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 内田 靖之	指定なし

#### 担当教員

増田 研一・中尾 哲也・吉田 隆紀・山口 由美子・寺岡 祐助

#### 目的

主に『予防とコンディショニング』で学んだ知識を現場に於いて実践応用すること。

#### 到達目標

競技活動に於いて対象者が高いパフォーマンスを発揮できるように様々なコンディショニングの方法を実践できるようにする。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. コンディショニングの把握と管理
2. コンディショニングの方法
3. コンディショニングの実際
4. 競技種目特性とコンディショニング
5. 傷害予防に必要な環境整備

#### 成績の評価

実習への取り組み度、デイリーレポート、発表・プレゼンテーションなどを総合して評価する。

#### 自己学習

授業1コマについて0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

#### 履修上の注意

遅刻や欠席は原則的に認められない。日本体育協会公認アスレティックトレーナー専門科目である。

#### テキスト

「日本体育協会公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ～Ⅲ」、「公認アスレティックトレーナー専門テキスト①～⑨」（日本体育協会）

#### 参考資料

適宜、指示する。

#### オフィスアワー

火曜日 9:00-12:00（内田）  
 月曜日 16:30-18:00、火曜日 15:00-17:00（吉田）  
 12:00-13:00

月～金曜日 (中尾)

月～木曜日 12:10-13:10、16:20-17:00 (山口) ※あらかじめアポを取ること。

水・金曜日 12:10-13:10 (寺岡)

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟3階311研究室、uchida@kansai.ac.jp (内田)

診療・研究棟4階412研究室、nakao@kansai.ac.jp (中尾)

診療・研究棟3階305研究室、t.yoshida@kansai.ac.jp (吉田)

診療・研究棟4階415研究室、yumiko@kansai.ac.jp (山口)

診療・研究棟3階教員室、teraoka@kansai.ac.jp (寺岡)

講義コード	3A031011
講義名	フィットネス実習Ⅰ
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
科目分類・分野名	総合領域
科目ナンバリング	A3-2717
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 相澤 慎太	指定なし

#### 目的

トレーニングには全身持久力系、筋力・筋持久力系、柔軟性系、調整力系などがある。本講座ではこれらの能力を向上させる様々な運動（ウォーキング、ジョギング、ストレッチング、補強運動など）を安全にまた効果的に行う上で必要な知識と技術を学ぶ。また、トレーニング前後に必要な体調チェックやウォーミングアップ、クーリングダウンについても実践する。

#### 到達目標

健康増進の運動を理論だけでなく実践できるようになる。  
健康運動の指導をすることができるようになる。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. ウォーミングアップ・クーリングダウンの理論と実際
2. ウォーキングの実践①
3. ウォーキングの実践②
4. ジョギングの実践①
5. ジョギングの実践②
6. 全身持久力のトレーニング（ウォーミングアップとクーリングダウンの理論と実践を含む）
7. 全身持久力のトレーニング
8. 筋力・筋持久力のトレーニング
9. 筋力・筋持久力のトレーニング
10. 柔軟性系のトレーニング
11. 調整力系のトレーニング
12. 子供のフィットネスプログラム
13. 壮年（中年）のフィットネスプログラム
14. 高齢者のフィットネスプログラム
15. 女性のフィットネスプログラム 障害者のフィットネスプログラム

#### 成績の評価

レポート50% 実技試験50%

#### 自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

#### 履修上の注意

本科目は健康運動実践指導者、JATI認定トレーニング指導者の認定科目となっている。  
健康運動実践指導者を受験する学生は、当該科目を履修しなければならぬ。当該科目は、そ

の養成講座、「10、エアロビック運動の理論と実際（実技）」の内容も含む。

テキスト

「健康運動実践指導者養成用テキスト」（健康体力づくり事業財団）

オフィスアワー

木曜日 12：30～13：00

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟 3階 313研究室  
aizawa@kansai.ac.jp

講義コード	3A039011
講義名	リハビリテーション各論
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
科目分類・分野名	専門基礎
科目ナンバリング	A3-2107
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 中尾 哲也	指定なし

#### 担当教員

鈴木 俊明

#### 目的

各疾患の病態の理解と、その疾患のリハビリテーションの目的および方法について知る。

#### 到達目標

教科書に書かれてある項目、内容について理解する。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. 脳卒中のリハビリテーション (1) (鈴木)
2. 脳卒中のリハビリテーション (2) (鈴木)
3. 脊髄損傷のリハビリテーション (1) (中尾)
4. 脊髄損傷のリハビリテーション (2) (中尾)
5. 切断のリハビリテーション (中尾)
6. 小児のリハビリテーション (中尾)
7. 骨関節疾患のリハビリテーション (1) (中尾)
8. 骨関節疾患のリハビリテーション (2) (中尾)
9. 骨関節疾患のリハビリテーション (3) (中尾)
10. パーキンソン病のリハビリテーション (鈴木)
11. 呼吸器疾患のリハビリテーション (中尾)
12. 心疾患のリハビリテーション (中尾)
13. 高齢者のリハビリテーション (中尾)
14. 運動の仕組み (1) (中尾)
15. 運動の仕組み (2) (中尾)

#### 成績の評価

定期試験により評価する。

#### 自己学習

解剖学、生理学、臨床医学の知識が不可欠であり、授業<sup>1</sup>コマにつき0.5コマ (45分) 相当の予習と復習を行なうこと。

#### テキスト

「リハビリテーション医学」 (医歯薬出版)

#### 参考資料

「臨床医学各論」 (医歯薬出版)

オフィスアワー

月～木曜日 12:30～13:00

研究室・授業用E-mail

研究室：4号館7階 D719      E-mail : nakao@kansai.ac.jp



講義コード	3A048011
講義名	医学推計学
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
科目分類・分野名	総合領域
科目ナンバリング	A3-2702
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 山本 博司	指定なし

#### 目的

医学・医療の世界では医学推計学は必須の学問になっている。  
 自ら研究するためだけでなく、医学論文を読み、理解し、日常の臨床に活かしていくために必要なのである。  
 ここでは、単なる医学推計学に終わらず、その周辺の学問、疫学、EBM（根拠に基づいた医学）などを理解し、科学的思考ができるようにする。

#### 到達目標

医学関連論文を正しく理解し、その内容を評価できるようになる。  
 また、自分の臨床治療の基礎知識として活用できる。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. 医学の基礎（医学とは）
2. 医学の方法（医学が用いる手法）
3. 医学推計学の基礎（すべての現象を数値化する）
4. 代表値
5. 標準偏差
6. 分布（正規分布）
7. 仮説検定：偶然に起こる確率を調べる。
8. 2群の比較：ランダム化比較試験（RCT）
9. 対応のない検定①（F検定）
10. 対応のない検定②
11. 対応のあるt検定③
12. t検定の応用
13. その他の検定
14. 筆記試験
15. 総括

#### 成績の評価

定期試験で評価する。

#### 自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習「を行うこと。

#### テキスト

プリント配布

参考資料

適宜紹介する。

オフィスアワー

月曜日・水曜日 (12:15~13:00) 、前もって予約されれば可能な限り対応致する。

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟3階 312研究室・yamamoto@kansai.ac.jp

講義コード	3A049011
講義名	医事法規
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
科目分類・分野名	専門基礎
科目ナンバリング	A3-2201
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 組口 庄司	指定なし

#### 目的

医事法規は多岐にわたりますが、昨今の社会的な状況を踏まえつつ各分野の法の意義を知識として身につけることを目標とする。

#### 到達目標

医事法規の基本的な理念と実務面で、医療者として必要不可欠な法的知識を習得すること。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. 法学の基本
2. 医事法規とは、医事法学の機能
3. 医事衛生行政法の沿革
4. 「あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律」と免許の要件等
5. 「あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律」と業務、その他の事項
6. 関係法規① 医療法とは
7. 関係法規② 地域医療とは
8. 関係法規③ 地域医療計画
9. 関係法規④ 医療関係従事者と諸法規
10. 医療過誤と裁判、判例、医療過誤とリスクマネジメント
11. 衛生関係法規 地域保険法、諸法規
12. 社会福祉・社会保険関係法規
13. 生命倫理と法① インフォームド・コンセント
14. 生命倫理と法② 自己決定権、告知
15. 生命倫理と法③ 判例

#### 成績の評価

定期試験、レポート評価等を総合評価する。（試験80%、レポート20%）

#### 自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。法律の学びには幅広い一般常識の涵養が大事。新聞を問題意識を持って読むこと。

#### 履修上の注意

各法規の目的、意義を踏まえ、それぞれの法の社会的な役割を理解していくこと。

#### テキスト

「関係法規」（医歯薬出版）

## 参考資料

関係六法 例えば

「実務衛生行政六法」 新日本法規

「医療の法律学」 (有斐閣)

「医事法入門」 (有斐閣)

「医療と法を考える」 (有斐閣)

講義コード	3A067021
講義名	英語表現法Ⅲ
講義開講時期	通年
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
科目分類・分野名	言語とコミュニケーション
科目ナンバリング	GE-1304
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 南澤 佑樹	指定なし
非常勤	板垣 浩正	指定なし

#### 担当教員

板垣 浩正(前期)・南澤 祐樹(後期)

#### 目的

現代国際社会に対する視野を広げ、最新的话题を英語で学び、「読む・聞く・書く・話す」といった基本的な英語能力を身に付けることを目的とする。また、グループ内での学修を通して、自分自身の考えを他者が理解できるように発信するために必要な論理的思考やコミュニケーション能力の向上も目指す。受講者数・受講生の理解に応じて、進度は変更する場合がある。

#### 到達目標

本講義内で使用されている基本的な英語表現を習得し、会話に応用することが出来る。自分の身近な事柄や社会の事象について、意見を述べ、辞書を使って書くことが出来る。自分の専門分野について、2～3分程度、英語や日本語で説明することが出来る。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. オリエンテーション
2. Unit 1 College Sports
3. Unit 2 Hip Hop Music
4. Unit 3 Travel
5. Unit 4 Video Games
6. Unit 6 Fast Food
7. 中間確認テスト
8. Unit 8 Medical Tourism
9. Unit 11 E-commerce
10. Unit 12 Coffee Shop
11. Unit 14 SNS
12. 中間確認テスト
13. プレゼンテーション準備
14. プレゼンテーション1
15. プレゼンテーション2
  
16. 後半オリエンテーション
17. Lesson 3: Talk About Unfair!
18. Lesson 6: Mind Games

19. Lesson 8: Bridging a Divide
20. Lesson 9: A Drinking Problem
21. Lesson 11: Counting Sheep
22. Group Work (1)-1
23. Group Work (1)-2
24. Lesson 13: Skin Deep
25. Lesson 15: Africa's University of the Future
26. Lesson 16: A Cool Idea
27. Lesson 19: Words, Words, and More Words
28. Lesson 22: The Best Fathers in the World?
29. Group Work (2)-1
30. Group Work (2)-2

### 成績の評価

授業への取り組み度: 20%  
確認テスト: 40%  
プレゼンテーション: 40%

16～30回:

出席: 5%

小テスト: 15%

個人プレゼンテーション: 25%

グループワーク: 20%

授業内活動: 35%

### 自己学習

授業1コマにつき0.5コマ(45分)相当の予習と復習(授業中で指示された箇所)を行なうこと。  
日本語や英語での要旨の作成、暗誦を課す場合がある。

### 履修上の注意

辞書とテキストは必携。授業へ積極的に参加することが重要である。

### テキスト

1-15回: 「English Indicator 3 <Intermediate>」(南雲堂)

16-30回: 「What in the World ちょっと世界を見てみよう」(南雲堂)

### 参考資料

講義内で紹介する。

### オフィスアワー

前半・後半初回授業時に提示する。

### 研究室・授業用E-mail

前半・後半初回授業時に提示する。

講義コード	3A072011
講義名	応急処置実習
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
科目分類・分野名	総合領域
科目ナンバリング	A3-2716
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 山口 由美子	指定なし

#### 担当教員

金井 成行・津田 和志・畑村 育次・尾原 弘恭

#### 目的

運動中に出現しやすい病態を把握し、その際の一次救命処置・応急処置について習得する。

#### 到達目標

緊急事態に適切に行動できる者を養成する。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. 運動中止の判定
2. 運動中に起こる疾患（外科） 1
3. 運動中に起こる疾患（外科） 2
4. 運動中に起こる疾患（外科） 3
5. 運動中に起こる疾患（内科） 1
6. 運動中に起こる疾患（内科） 2
7. やけど、けいれん、溺水
8. 救急、救助の現況
9. 一次救命処置の手順
10. 心肺蘇生
11. AEDを用いた救命処置
12. 気道異物除去、止血法
13. テーピング 1
14. テーピング 2
15. テーピング 3

【開講期間は8月20日～24日を予定しています。】

#### 成績の評価

5人の講師による各20%配分の筆記試験、レポートを行う。

#### 自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

#### 履修上の注意

健康運動実践指導者、JATI認定トレーニング指導者を受験する学生は、当該科目を履修しなければならない。

## テキスト

「健康運動実践指導者養成テキスト（財）」（健康・体力づくり事業団）

## オフィスアワー

金井：月曜日（12時10分～13時10分）

津田：木曜日（16時～17時診療所にて）出張で留守の時もあるので事前に確認を入れること。

畑村：木曜日（13時～14時30分）

尾原：水曜日（13時～17時）

山口：月曜～木曜日（12時10分～13時10分,16時20分～17時）実習等で学外に出ている場合もあるので、あらかじめアポイントメントを取ること。

## 研究室・授業用E-mail

### 研究・診療棟

409研究室（金井）、405研究室（津田）、402研究室（畑村）、310研究室（尾原）、415研究室（山口）



講義コード	3A119011
講義名	健康づくり概論
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
科目分類・分野名	総合領域
科目ナンバリング	A3-2715
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 五十嵐 純	指定なし

#### 目的

少子・高齢化、要介護高齢者の増加、生活習慣病の増加、医療費の増加など社会を取り巻く環境は大きく変化し、健康づくりの重要性はますます増加している。一方、健康づくりには運動、栄養、休養の三本柱の重要性が知られており本講座ではこれらと健康との関わりについて学ぶ。また、メタボリックシンドロームに有効な有酸素運動や高齢者の転倒防止に有効な筋力トレーニング、柔軟性を増加させるストレッチングや運動を行う上で基礎となるトレーニングの原理などについての理解も深める。

#### 到達目標

健康に関する現代社会の問題点を理解する。  
健康づくりに有効な運動の知識を深める。  
運動プログラムがつけられるようになる。

#### 授業計画表

#### 授業計画

- 1.健康づくりとは、健康づくりに関する基礎知識
- 2.健康づくりのための身体活動基準2013、メッツ
- 3.健康づくりのためのトレーニングの原則、運動量と運動強度
- 4.健康づくり運動プログラム作成の基礎
- 5.ウォーミングアップとクーリングダウン
- 6.有酸素運動とその効果①
- 7.有酸素運動とその効果②
- 8.レジスタンス運動
- 9.健康づくりと運動プログラムのまとめ
- 10.運動実践にかかわる社会、心理、環境的要因
- 11.健康づくりの身体の機能
- 12.健康づくりと身体の構造
- 13.健康によい運動
- 14.健康づくりと公衆衛生 健康づくりと栄養
- 15.スポーツにおける傷害と処置

#### 成績の評価

定期試験を70%、小テストを30%にて評価する。

#### 自己学習

授業1コマにつき2コマ(180分)相当の予習と復習を行うこと。特に前回までに学んだ内容の小テストを行うため、プリントや板書した内容について、十分復習すること。

## 履修上の注意

健康運動実践指導者、JATI認定トレーニング指導者を受験する学生は当該科目を履修しなければならない。

遅刻・早退は1/3欠席として計算する。

## テキスト

「健康運動実践指導者用テキスト」 (健康・体力づくり事業財団)

## オフィスアワー

木曜日 12:30~13:00

## 研究室・授業用E-mail

診療・研究棟4階 401研究室・igarashi@kansai.ac.jp

講義コード	3A122011
講義名	健康管理学
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
科目分類・分野名	総合領域
科目ナンバリング	A3-2714
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 津田 和志	指定なし

#### 目的

健康管理学は人間の健康の維持・増進に関する学問である。本講座では、健康は、運動、栄養、休養の調和のとれた生活を送ることが重要であるとの考えから、運動、栄養、休養と健康に関する知識を習得する。

#### 到達目標

健康に影響を及ぼす様々な生活習慣や環境要因、健康を脅かす病気の実態についても予防医学としての視点から述べるとともに、不健康な生活は「介護予防」を早めることを理解させ、個人の健康管理が個人だけの問題ではなく、社会全体に対する問題であることも認識させる。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. 病気、健康、体力の概念(1)
2. 病気、健康、体力の概念(2)
3. 疾病構造の変化、健康づくりに果たす運動の役割(1)
4. 疾病構造の変化、健康づくりに果たす運動の役割(2)
5. 高齢化社会の傾向と現状、高齢者の健康管理
6. 高血圧、脂質代謝異常、糖尿病に代表される生活習慣病の危険因子(1)
7. 高血圧、脂質代謝異常、糖尿病に代表される生活習慣病の危険因子(2)
8. 高血圧、脂質代謝異常、糖尿病に代表される生活習慣病の危険因子(3)
9. 高血圧、脂質代謝異常、糖尿病に代表される生活習慣病の危険因子(4)
10. 運動による生活習慣病の予防効果(1)
11. 運動による生活習慣病の予防効果(2)
12. 運動による生活習慣病の予防効果(3)
13. 運動前のメディカルチェック
14. 救急時の対応(1)
15. 救急時の対応(2)

#### 成績の評価

前期の試験、ならびに出席状況、授業態度により総合的に評価する。

#### 自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習、復習を行うこと。

#### 履修上の注意

本科目は、健康運動実践指導者の対応科目である。

#### テキスト

「健康運動実践指導者 養成用テキスト」  
(健康、体力づくり事業財団)  
履修希望者は必ずテキストを購入すること。

参考資料

「内科学」(朝倉書店)

オフィスアワー

木曜日内科外来終了後(内科外来にて15:30頃より)。会議、出張が多いので事前連絡必要。

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟4階 405研究室・tsudak@kansai.ac.jp

講義コード	3A243011
講義名	総合演習Ⅰ
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
科目分類・分野名	総合領域
科目ナンバリング	A3-5002
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 池藤 仁美	指定なし

#### 担当教員

椋田 高士・坂口 俊二・戸村 多郎・内田 靖之・中吉 隆之

#### 目的

本演習は、「キャリア教育科目」に指定されているため、はり師・きゅう師の国家資格を取得する時、あるいはその先も含め将来的にも必須となる「学び方」の学修および、e-learning (KUHS2 Moodle) を活用しての学修方法の習得する。

また、4年次の「総合演習Ⅱ」と関連した内容（衛生学・解剖学・生理学・東洋医学概論）についても講義を行う。

#### 到達目標

- ・ e-learningの活用方法およびグループ学習の習熟を目指す。
- ・ 4年次の「総合演習Ⅱ」と連携してはり師・きゅう師国家試験対策に繋げる。

#### 授業計画表

#### 授業計画

- 1・2. ガイダンス（坂口）・東洋医学概論（中吉）
- 3・4. 生理学（内田）
- 5～7. 衛生・公衆衛生学（椋田）
- 8～10. 解剖学（戸村）
11. e-learningの使い方およびTBL（Team based learning）の説明
12. TBL（衛生・公衆衛生学）
13. TBL（解剖学）
14. TBL（生理学）
15. TBL（東洋医学概論）

#### 成績の評価

12～15のTBLでおこなうグループ学習での取り組み度を評価したピア評価の平均：10%  
 国試模試の解説ノート：10%  
 4回のTBLで行う個人テストおよび応用テストの平均点：18%  
 国試模試：12%  
 後期末試験：50%

#### 自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。  
 予習および復習の内容は、KUHS2 Moodleを活用して、関連科目の国家試験問題の過去問に取り組むこと。

履修上の注意

資料は、適宜紹介する。

テキスト

当該科目の教科書とする。

オフィスアワー

金曜日 12:30～13:00 (池藤)

空いている時間に対応するので、メール等で事前連絡をすること。

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟3F 教員室・ikefuji@kansai.ac.jp (池藤)

講義コード	3A268011
講義名	東洋医学各論Ⅱ
講義開講時期	通年
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A3-4105
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 王財源	指定なし

#### 目的

1年次、2年次に習得した、東洋医学の専門的な基礎知識を集積し、疾病の構造を伝統医学的に病態別分類（弁証論治）する。とくに3年次には、望診、聞診、問診、切診による、身体に発生する疾病と四診との関係性を明らかにする専門的な知識が必要であることから、再度、伝統医学的な基本概念に復習を重ね、「弁証」と「弁病」の関係について、「四診」による診断情報を用いて分析する能力を習得することを講義目的とする。

1. 八綱弁証
2. 病邪弁証
3. 気血弁証
4. 臓腑弁証
5. 経絡弁証

以上の弁証による「証」を決定する症例分析能力を習得する。

#### 到達目標

異なった病因と病機は「弁証」を行う上で重要なカギを握る。本講義では「弁証」と「弁病」の考え方を実践的に取り組むために、具体的な「弁証」・「処方」・「配穴」といった治療概念を育て、症例に対する分析能力を養うことを学習成果の到達目標とし、症例を中心とした試験問題の合格の可否をもって最終単位を認定する。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. 総論 四診と証候分析
2. 頭痛【真頭痛・頭風】
3. 顔面痛【頬痛】、顔面麻痺【口喎】
4. 胸痛【胸痺】、脇痛【脇下痛】
5. 腰下肢痛・坐骨神経痛【脊痛腰似折】
6. 不眠【目不瞑・不寢】
7. 疲労と倦怠【怠惰・体惰】
8. 肩凝り、五十肩【肩痺痛・肩背痺痛】
9. 頸肩腕痛【頸項痛】
10. 上肢痛【肩前臑痛・臂痛】
11. 膝痛【膝中痛・鶴膝風・歴節風】
12. 運動麻痺【癱瘓・痿躄】
13. 歯痛【牙齒痛・齲齒】
14. 鼻閉【鼻塞】、鼻汁【流涕】
15. 耳鳴り、難聴【耳聾】

- 16.咳嗽【上気】
- 17.喘息【哮喘・喘鳴】
- 18.発熱【畏寒発熱】
- 19.腹痛【胃脘痛】
- 20.悪心と嘔吐【嘔気】
- 21.便秘【脾約】、下痢【泄瀉・濡瀉】
- 22.食欲不振【納呆】
- 23.月経異常【月経紊乱】
- 24.排尿障害【癱閉】
- 25.インポテンツ【陽痿】
- 26.めまい【頭眩・眩暈】
- 27.高血圧【肝風】、低血圧【虚損】
- 28.肥満【肥貴人】、脱毛症【髮墮】
- 29.のぼせと冷え【寒厥・厥逆】
- 30.眼精疲労【目昏】

#### 成績の評価

定期試験90%・レポート10%を最終評価とする。

中間試験を実施した場合には中間テスト40%、定期試験50%、レポート10%とする。

#### 自己学習

授業1コマにつき0.5コマ(45分)相当の予習と復習を行うこと。

#### 履修上の注意

#### テキスト

「東洋医学臨床論」(医道の日本社)

#### 参考資料

「わかりやすい臨床中医実践弁証トレーニング・第2版」(医歯薬出版)

「わかりやすい臨床中医臓腑学・第3版」(医歯薬出版)

「わかりやすい臨床中医診断学・第2版」(医歯薬出版)

「痛みのマネジメント」(医歯薬出版)

「経筋・経別・奇経診療」(厚生社)

#### オフィスアワー

木曜日 12:30~14:00

面談時には事前にメールで連絡すること。

#### 研究室・授業用E-mail

診療・研究棟4F 413研究室

E-mail:cai@kansai.ac.jp



講義コード	3A374011
講義名	和漢診療学
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
科目分類・分野名	総合領域
科目ナンバリング	A3-2701
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 若山 育郎	指定なし

#### 目的

漢方薬についての理解を深める。

#### 到達目標

いろいろな臨床場面での漢方薬の効用について理解する。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. 漢方の歴史
2. 傷寒論と六経
3. 傷寒論の生薬
4. 傷寒論 太陽病篇
5. 傷寒論 陽明病、少陽病篇
6. 傷寒論 太陰病・少陰病・厥陰病篇
7. 金匱要略の代表的方剤
8. 金匱要略の代表的方剤
9. その他の方剤・・・抑肝散など
10. その他の方剤・・・六君子湯など
11. その他の方剤・・・半夏厚朴湯と香蘇散
12. 症例提示・・・四逆散と起立性調節障害
13. 症例提示・・・人参湯・大建中湯と潰瘍性大腸炎
14. 症例提示・・・当帰四逆加呉茱萸生姜湯と強皮症
15. 症例提示・・・八味地黄丸とパーキンソン病

#### 成績の評価

筆記試験により評価する。

#### 自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

#### オフィスアワー

火曜・水曜日 12:30-13:00

#### 研究室・授業用E-mail

1号館2階 205研究室  
wakayama@kansai.ac.jp

講義コード	3A393011
講義名	鍼灸診察法Ⅰ
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A3-2605
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 坂口 俊二	指定なし

#### 担当教員

山崎寿也

#### 目的

本実習は、4年次配当の患者を対象とする「鍼灸治療所実習Ⅰ・Ⅱ」に繋げる重要な科目である。附属鍼灸治療所での実習に向け、鍼灸治療に至る過程である医療面接、血圧測定、身体診察などについて習得することを目的とする。また、当該科目は、「キャリア教育科目」に指定されている。本学学生が、専門教育を学び資格を取得した上で、自らが卒業後の職業を選択し将来的にその現場で活躍、貢献できるよう当該科目の授業の一部で「人間力」や「仕事力」が身に付くように支援する。

#### 到達目標

医療面接において関与しながらの観察ができる。  
適切に血圧が測定ができ、鍼灸治療による変化が説明できる。  
運動器疾患の鑑別、病態把握のための整形外科的徒手検査法や神経学的な診察ができる。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. 本実習のねらいと進め方 / 医療面接とは？
2. 血圧測定の意義と適切な測定法
3. 低周波鍼通電療法の基礎と機器の取り扱い
4. 頸肩腕痛の鑑別・医療面接・整形外科的徒手検査法や神経学的な診察・治療法①
5. 頸肩腕痛の鑑別・医療面接・整形外科的徒手検査法や神経学的な診察・治療法②
6. 頸肩腕痛の鑑別・医療面接・整形外科的徒手検査法や神経学的な診察・治療法③
7. 頸肩腕痛の鑑別・医療面接・整形外科的徒手検査法や神経学的な診察・治療法④
8. 頸肩腕痛の鑑別・医療面接・整形外科的徒手検査法や神経学的な診察・治療法[まとめ]⑤
9. 腰下肢痛の鑑別・医療面接・整形外科的徒手検査法や神経学的な診察・治療法①
10. 腰下肢痛の鑑別・医療面接・整形外科的徒手検査法や神経学的な診察・治療法②
11. 腰下肢痛の鑑別・医療面接・整形外科的徒手検査法や神経学的な診察・治療法③
12. 腰下肢痛の鑑別・医療面接・整形外科的徒手検査法や神経学的な診察・治療法④
13. 腰下肢痛の鑑別・医療面接・整形外科的徒手検査法や神経学的な診察・治療法[まとめ]⑤
14. 模擬治療
15. 模擬治療（OSCEのシミュレーション含む）

#### 成績の評価

医療面接・血圧測定・身体診察法などの客観的臨床能力試験（OSCE）60%・期末（学科）試験40%で評価する。

## 自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

## テキスト

## 参考資料

「鍼灸臨床 問診・診察ハンドブック」（医道の日本社）

「鍼通電療法テクニック」（医道の日本社）

「新訂 方法としての面接」（医学書院）

## オフィスアワー

水曜日12：00～13：00（坂口）

木曜日12：00～13：00（山崎）

## 研究室・授業用E-mail

診療・研究棟4階412研究室・sakaguti@kansai.ac.jp（坂口）

診療・研究棟3階311研究室・yamazaki@kansai.ac.jp（山崎）

講義コード	3A394011
講義名	鍼灸診察法Ⅱ
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A3-2606
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 坂口 俊二	指定なし

#### 担当教員

鍋田理恵

#### 目的

本実習は、4年次配当の患者を対象とする「鍼灸治療所実習Ⅰ・Ⅱ」に繋げる重要な科目である。附属鍼灸治療所での実習に向け、鍼灸診察法Ⅰの内容に加え、東洋医学的な診察法や鍼灸配穴法を習得することを目的とする。また、当該科目は、「キャリア教育科目」に指定されている。本学学生が、専門教育を学び資格を取得した上で、自らが卒業後の職業を選択し将来的にその現場で活躍、貢献できるよう当該科目の授業の一部で「人間力」や「仕事力」が身に付くように支援する。

#### 到達目標

鍼灸診察法Ⅰの到達目標に加え、  
 基本的な脈診・舌診・腹診ができる。  
 医療面接の情報を東洋医学的に理解できる。  
 鍼灸配穴を考え、治療を組み立てることができる。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. 頭痛の鑑別・医療面接・神経学的な診察・治療法①
2. 頭痛の鑑別・医療面接・神経学的な診察・治療法②
3. 耳鳴・めまいの鑑別・医療面接・神経学的な診察・治療法①
4. 耳鳴・めまいの鑑別・医療面接・神経学的な診察・治療法②
5. 東洋医学的診察法（脈診）
6. 東洋医学的診察法（舌診）
7. 東洋医学的診察法（腹診）
8. 東洋医学的診察法（候背診）
9. 鍼灸配穴（要穴の運用）
10. 経筋治療
11. 鍼灸併用物理療法の概要と機器の取扱い
12. 模擬治療
13. 模擬治療
14. カルテの役割と今後の鍼灸カルテの在り方（症例報告の書き方含む）
15. 附属鍼灸治療所でのオリエンテーション/総復習（OSCEのシミュレーション含む）

#### 成績の評価

医療面接・東洋医学的診察法、鍼灸実技などの客観的臨床能力試験（OSCE）50%・期末（学

科) 試験40%・レポート課題や小テスト10%で評価する。

### 自己学習

授業1コマにつき0.5コマ(45分)相当の予習と復習を行う。

### テキスト

項目内容にかかる東洋療法学校協会編の教科書する。

### 参考資料

「日本鍼灸の診断学」(メディカルユーコン)

### オフィスアワー

水曜日12:00~13:00(坂口)

火~金曜日12:30~13:00(鍋田)

### 研究室・授業用E-mail

診療・研究棟4階412研究室・sakaguti@kansai.ac.jp(坂口)

診療・研究棟4階416研究室・nabeta@kansai.ac.jp(鍋田)

講義コード	3A395011
講義名	鍼灸特殊治療法
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A3-2401
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 吉備 登	指定なし

#### 担当教員

百合邦子

#### 目的

東洋医学の近代的な特殊治療法をいくつか紹介・解説する。授業内容は特殊な治療方法の理論だけでなく、必要に応じて実技指導も行う。学んだ治療法は実際の臨床においても高い有用性が期待できる。

#### 到達目標

学修した特殊な鍼灸治療を理解し、その技術を実際に臨床に応用して使えるようになること。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. 良導絡自律神経調整療法1 (吉備)
2. 良導絡自律神経調整療法2 (吉備)
3. 良導絡自律神経調整療法3 (吉備)
4. 良導絡自律神経調整療法4 (吉備)
5. 知熱感度測定法・皮内鍼1 (吉備)
6. 知熱感度測定法・皮内鍼2 (吉備)
7. 頭皮鍼・髪際鍼治療1 (吉備)
8. 頭皮鍼・髪際鍼治療2 (吉備)
9. 灸頭鍼1 (吉備)
10. 灸頭鍼2 (吉備)
11. 小児鍼 (吉備・百合)
12. 擦過鍼 (吉備)
13. 耳鍼 (吉備・百合)
14. 手鍼 (吉備)
15. 低周波鍼通電療法 (吉備・百合)

#### 成績の評価

前期筆記試験70%、および授業後に課題の提出を求め、その課題評価点30%の総合点で評価する。

#### 自己学習

あらかじめ指定したテキストおよび配布された鍼灸特殊治療法のプリントなどを熟読し、授業1コマにつき2コマ(180分)相当の予習と復習をおこなうこと。次回の講義内容を予習して、もし

質問があれば準備してくる。

#### テキスト

「良導絡自律神経調整療法 基礎編」 (浪速社)

#### 参考資料

「鍼通電療法テクニック」 (医道の日本社)

「わかりやすい小児鍼の実際」 (源草社)

「新しい鍼灸臨床入門」 (松栄印刷)

#### オフィスアワー

金曜日 15:00～17:00 (吉備)

#### 研究室・授業用E-mail

診療・研究棟3階 304研究室 kibi@kansai.ac.jp (吉備)

講義コード	3A402011
講義名	鍼灸臨床実習Ⅱ（神経系）
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A3-2603
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 谷 万喜子	指定なし

#### 担当教員

木村 研一

#### 目的

この科目は、神経系疾患に対する鍼灸治療実習です。神経系疾患の症状の特徴、鍼灸治療の適・不適の鑑別や鍼灸治療の方法などを講義し、臨床に即した治療実習を行う。

#### 到達目標

鍼灸臨床で活かせる知識と技術を身につける。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. 頭痛 (p.14-18) (木村)
2. 顔面痛 (p.18-21) (木村)
3. 顔面麻痺 (p.22-25) (木村)
4. 上肢痛 (p.84-87) (木村)
5. 下肢痛 (p.87-91) (木村)
6. 運動麻痺 (上肢) (p.93-98) (木村)
7. 運動麻痺 (下肢) (p.93-98) (木村)
8. 胸痛 (p.48-50) (谷)
9. 不眠 (p.114-116) (谷)
10. 疲労と倦怠 (p.117-119) (谷)
11. 運動麻痺 (脳血管障害) (p.93-98) (谷)
12. 中枢神経疾患 (パーキンソン病・ジストニアなど) (谷)
13. 精神神経疾患 (心身症など) (谷)
14. 老年医学 (p.144-152) (谷)
15. まとめ

※ ( ) 内は、「東洋医学臨床論 (はりきゅう編)」のページ数

#### 成績の評価

後期定期試験 (70%) ・実習点 (30%) にて評価する。

#### 自己学習

授業1コマにつき0.5コマ (45分) の予習と復習を行なうこと。特に、前もって経穴学、東洋医学概論、解剖学、生理学、病理学、診断学、治療学などの復習をしておくこと。

#### テキスト



「東洋医学臨床論（はりきゅう編）」（医道の日本社）  
他に適宜プリント配布を行う。

#### 参考資料

「図解 鍼灸療法技術ガイド」（文光堂）  
「鍼灸臨床マニュアル」（医歯薬出版）  
「臨床医学総論」（医歯薬出版）  
「臨床医学各論」（医歯薬出版）

#### オフィスアワー

火曜日 12:30～13:00（木村）

月曜日 12:30～13:00（谷）

#### 研究室・授業用E-mail

診療・研究棟4階414研究室・k.kimura@kansai.ac.jp（木村）

診療・研究棟4階416研究室・tani@kansai.ac.jp（谷）

講義コード	3A428011
講義名	鍼灸臨床実習Ⅰ（運動器系）
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A3-2602
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 鍋田 理恵	指定なし

#### 担当教員

北川 洋志、川本 正純

#### 目的

「運動器疼痛」に対する鍼灸治療法を学ぶ目的は二つ。一つは国試対策。もう一つは現代医学よりも優位に立てる唯一の臨床領域(運動器疼痛)の鎮痛技法、考え方を身に付けること。

#### 到達目標

臨床、スポーツ現場で使えるレベルの技術習得を目指す。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. 肩こり(筋膜性の痛みと凝り感)
2. 肩こり(肩凝りに関連する諸症状)
3. 頸部痛(頸こり、外傷性頸部症候群、寝違い)
4. 頸肩腕痛(頸椎症、痺証、スポーツ障害、捻挫)
5. 肩関節痛(上腕二頭筋長頭腱炎、五十肩)
6. 肩関節痛(野球肩)
7. 上肢痛(胸郭出口症候群)
8. 上肢痛(テニス肘、腱・腱鞘炎)
9. 腰下肢痛(筋・筋膜性腰痛、椎間関節性腰痛)
10. 腰下肢痛(坐骨神経痛、梨状筋症候群)
11. 腰下肢痛(大腿痛、肉離れ)
12. 股関節痛
13. 下腿・足の痛み(アキレス腱炎、足底腱膜炎、コンパートメント症候群、シンスプリント)
14. 膝関節痛(ジャンパー膝、オスグッド病)
15. 膝関節痛(変形性膝関節症)

#### 成績の評価

試験80%、基礎技術の到達度および課題提出など20%にて評価する。

#### 自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

授業内容について、臨床医学総論・各論、解剖学、経穴学、東洋医学概論テキストの対応部分を復習・整理してノートを作成する。

#### テキスト

「東洋医学臨床論（はりきゅう編）」（医道の日本社）

参考資料

適宜紹介する。

オフィスアワー

鍋田：火曜日～金曜日の12：30～13：00（事前にメールをすること）

北川：木曜日 12：10～12:40

研究室・授業用E-mail

鍋田：診療・研究棟4階416研究室 2c@kansai.ac.jp

北川：診療・研究棟3階教員室 kitagawa@kansai.ac.jp

講義コード	3A429011
講義名	臨床医学Ⅲ（内科系）
講義開講時期	通年
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
科目分類・分野名	専門基礎
科目ナンバリング	A3-2105
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 近藤 哲哉	指定なし

#### 担当教員

宗 正敏

#### 目的

「臨床医学Ⅰ（医学総論）」で学んだ西洋医学的知識を基礎とし、内科系各分野の具体的疾患について原因・症状・診断法・治療法について学修する。

#### 到達目標

内科系各分野の疾患に対する知識を集積し、臨床時に的確に対応できる基礎力を身に付ける。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. ガイダンス
2. 細菌感染症
3. ウイルス感染症
4. 性感染症
5. 口腔疾患・食道疾患
6. 胃・十二指腸疾患
7. 腸疾患
8. 肝臓疾患
9. 胆道疾患・膵臓疾患
10. 感染性呼吸器疾患
11. 閉塞性・拘束性呼吸器疾患
12. 原発性糸球体腎炎・腎不全
13. 腎・尿路感染症
14. 内分泌・代謝・栄養疾患
15. 前期のまとめ
16. 心臓弁膜症
17. その他心疾患、冠動脈
18. 動脈、血圧
19. 赤血球、白血球
20. リンパ、出血、脳血管
21. 神経感染
22. 神経腫瘍、変性
23. 認知症、筋運動、末梢神経
24. 頭痛
- 25.

- 膠原病  
26. 小児科、外科  
27. 外科  
28. 麻酔科  
29. 婦人科、皮膚科、眼科  
30. 耳鼻科、精神科、心療内科

#### 成績の評価

- [1] 前期 期末試験(約40点満点。追再試験なし。)  
[2] 前期 レポート(約5点満点。追再試験なし。)  
[3] 後期 4択問題の問題集を講義中に配る。期末試験には、その選択肢を入れ換えたマークシート問題を出題する。(40点満点。追再試験あり。)  
[4] 後期 講義中に小テストを行うことがある。(10点満点。追再試験なし。)  
以上を合計し、60点以上になれば合格です。追再試験は[3]のみ行います。

#### 自己学習

授業1コマにつき0.5コマ(45分)相当の予習と復習を行うこと。特に、授業計画の項目はテキストに対応しているため、予習をして臨むこと。

#### 履修上の注意

前期15週は宗、後期15週は近藤が担当する。  
出席を重視する。各回の講義ノートをしっかり作成すること。

#### テキスト

「臨床医学各論」〈医歯薬出版〉

#### 参考資料

「内科学書」(中山書店)

#### オフィスアワー

月曜日9:00～12:00(近藤)

#### 研究室・授業用E-mail

診療・研究棟3階 303研究室  
kondo0724538409@kansai.ac.jp(近藤)

講義コード	3A430011
講義名	鍼灸のリスクマネジメント
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
科目分類・分野名	専門基礎
科目ナンバリング	A3-4003
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 山崎 寿也	指定なし

#### 目的

鍼灸治療による有害事象の発生を防止するために万全を期す必要がある。

鍼灸治療における安全基準は必ずしも明らかではないが、この鍼灸のリスクマネジメントでは病院など医療機関の安全管理・感染管理の基準を視野に入れながら講義を行う。

また、過去に報告された鍼灸過誤報告例、有害事象例、日々の臨床で遭遇する可能性のあるインシデント事例等を提示しながら、その問題点を探り、将来鍼灸師として安全に臨床が行えるように危機管理について幅広く学ぶ。

なお、この科目は、「キャリア教育科目」に指定されています。

本学学生が、専門教育を学び資格を取得した上で、自らが卒業後の職業を選択し将来的にその現場で活躍、貢献できるよう当該科目の授業の一部で、「人間力」や「仕事力」が身に付くように支援する。

#### 到達目標

鍼灸臨床現場で発生する可能性がある有害事象を把握し、その対策を含む危機管理ができる鍼灸師をめざす。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. 鍼灸のリスクマネジメント総論
2. 医療過誤の種類とその防止Ⅰ 気胸
3. 医療過誤の種類とその防止Ⅱ 折鍼
4. 医療過誤の種類とその防止Ⅲ 伏鍼・神経損傷
5. 医療過誤の種類とその防止Ⅳ 施灸における熱傷
6. 医療過誤の種類とその防止Ⅴ ME機器、器具等・設備による過誤
7. 医療過誤の種類とその防止Ⅵ 感染防止①：病原微生物・感染症
8. 医療過誤の種類とその防止Ⅵ 感染防止②：手洗い・消毒（消毒剤を含む）
9. 医療過誤の種類とその防止Ⅵ 感染防止③：施術野の消毒・刺鍼抜鍼時の清潔操作
10. 医療過誤の種類とその防止Ⅵ 感染防止④：洗浄・滅菌
11. 鍼灸環境の構築・保持（感染性医療廃棄物処理含む）
12. 鍼灸の適応症・カルテの管理
13. 医療面接・クレーム対応
14. 医療保険
15. 鍼灸院の展開【キャリア支援教育：外部講師による】

#### 成績の評価

レポートで評価する。

## 自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

## テキスト

「鍼灸医療安全ガイドライン」（医歯薬出版）

「鍼灸医療安全対策マニュアル」（医歯薬出版）

## 参考資料

「鍼灸マッサージに於ける医療過誤（現場からの報告）」（三王商事）

## オフィスアワー

木曜日 12:00～13:00

## 研究室・授業用E-mail

診療・研究棟3F 311研究室・yamazaki@kansai.ac.jp

講義コード	3A431011
講義名	疼痛学
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
科目分類・分野名	専門基礎
科目ナンバリング	A3-2110
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 黒岩 共一	指定なし

#### 目的

運動器慢性疼痛とCRPSへの刺激療法の効果と治療過程で観察される事象からは、既知の痛み理論に収まりきれない「運動器疼痛像」が浮かび上がる。進展途上にある、それら疼痛像と現代医学に勝る運動器疼痛の鎮痛技術について解説・講義する。

#### 到達目標

運動器慢性痛、CRPSに関して科学的整合性のある視点を持ち、適切な治療方針が立てられる。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. 運動器疼痛の全体像
2. 運動器疼痛の科学哲学
3. 運動痛、自発痛(持続痛)、夜間痛
4. 急性痛、慢性痛に分けてはみたが...
5. 関連痛(発痛部位の位置錯覚)の発現高位
6. しびれ感は神経・血管だけに由来してない
7. 刺激療法の適応1：DN-TOS、坐骨神経痛
8. 刺激療法の適応2：CRPS、Strain(混合痛)
9. 刺激療法は発痛と鎮痛が同時進行する諸刃の剣
10. 何を刺激して発痛機序に介入しているか
11. 発痛部の特異的指標と探し方
12. 刺激療法のリスクー診断時
13. 刺激療法のリスクー治療時
14. 貫通触覚ー服上からの触察で小殿筋と断言できる訳
15. まとめ

#### 成績の評価

定期試験100%

#### 自己学習

授業1コマにつき2コマ(180分)相当の予習と復習を行うこと。授業の最後/配布プリントで次回講義のキーワードを伝えるので、参考文献、インターネットで予め意味、内容を調べておく(予習)。講義では十分に理解できなかった項目、用語を同様に調べ、配布プリントに書き入れる(復習)。

#### テキスト

#### 配布プリント

#### 参考資料



「医学と仮説」(岩波書店)

「『病は気から』を科学する」(講談社)

オフィスアワー

水曜日 12:30-13:00

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟3階 306研究室・kuroiwa@kansai.ac.jp

講義コード	3A432011
講義名	予防とコンディショニングⅡ
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
科目分類・分野名	専門基礎
科目ナンバリング	A3-2113
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 内田 靖之	指定なし

#### 担当教員

寺岡 祐助

#### 目的

コンディショニングは競技スポーツにおいて欠かすことの出来ない概念である。しかしながら、競技成績のみを追いかけることは傷害のリスクを高めていることと同義である。本講義・実習では競技力の健全な発揮を求めるコンディショニングと傷害リスクの除外である予防をどのように組み合わせる選手へ処方していくか、実践を交えて指導力の向上を目指す。

#### 到達目標

競技力向上のトレーニングと予防目的のトレーニングをどのように組み合わせるのか、実践力の獲得を目指す。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. コンディショニングの基礎①
2. コンディショニングの基礎②
3. スタビリティ①
4. スタビリティ②
5. スタビリティ③
6. スタビリティ④
7. ウェイトトレーニング①
8. ウェイトトレーニング②
9. プライオメトリクス①
10. プライオメトリクス②
11. アジリティトレーニング①
12. アジリティトレーニング②
13. サーキットトレーニング①
14. サーキットトレーニング②
15. コーディネーション①
16. コーディネーション②
17. 持久性トレーニング①
18. 持久性トレーニング②
19. ストレッチング①
20. ストレッチング②
21. ストレッチング③

- 22. ストレッチング④
- 23. 測定・評価の基礎①
- 24. 測定・評価の基礎②
- 25. 測定（ラボテスト・フィールドテスト）①
- 26. 測定（ラボテスト・フィールドテスト）②
- 27. 評価①
- 28. 評価②
- 29. 総括①
- 30. 総括②

#### 成績の評価

定期試験80%、講義・実習への取り組み度10%、レポート課題10%

#### 自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行なうこと。

テクニックやスキルは出来るようになることが最大の目的である。これらを追求するために実践的なプレゼンテーションを行なう。人前で話し、実践し、学びを深めていくこと。

授業1コマについて0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

#### 履修上の注意

本科目は（財）日本体育協会公認アスレティックトレーナー専門科目、及びJATIトレーニング指導者一般科目に認定されている。双方の受験対象となる者の遅刻・欠席は原則的に受験資格を得られない。やむを得ない欠席・遅刻については事前に相談すること。尚、欠席の場合レポート等で代替することがある。

#### テキスト

「日本体育協会公認アスレティックトレーナー専門テキスト⑥予防とコンディショニング」（日本体育協会）

#### 参考資料

「JATI認定トレーニング指導者オフィシャルテキスト・トレーニング指導者テキスト〔実践編〕」（大修館書店）

「JATI認定トレーニング指導者オフィシャルテキスト・トレーニング指導者テキスト〔実技編〕」（大修館書店）

#### オフィスアワー

火曜日 9:00-12:00（内田）

水・金曜日 12:10-13:10（寺岡）

#### 研究室・授業用E-mail

診療・研究棟3階311研究室・uchida@kansai.ac.jp（内田）

診療・研究棟3階教員室・teraoka@kansai.ac.jp（寺岡）

講義コード	3A433011
講義名	スポーツ医学Ⅱ
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
科目分類・分野名	専門基礎
科目ナンバリング	A3-2116
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 山口 由美子	指定なし

#### 目的

スポーツを実施するうえで危険はつきものである。しかし我々はそれらの危険を予測しリスクマネージメントすることで未然に防ぐ努力をする。また万が一発生してしまった疾病や傷害に対しては、迅速かつ適切な救急処置をすることが医療人としてまたスポーツトレーナーとして求められる。ここではあらゆる場面を想定し、それらに対応するための知識から実践までを学ぶ。

#### 到達目標

緊急時に備え一次救命処置を一人で行なうことができる。またスポーツ現場での活動に備え現場での評価、外傷や内科的疾患に対して救急処置が適切にできる。さらに起こりうる危険に対してリスクマネージメントができ、現場における救急体制を整えることができる。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. ガイダンス、救急処置の基礎的知識①
2. 救急処置の基礎的知識②
3. 救急処置の基礎的知識③、緊急時の対応計画と外傷の評価①
4. 緊急時の対応計画と外傷の評価②
5. 緊急時の対応計画と外傷の評価③
6. 外傷時の救急対応①
7. 外傷時の救急対応②
8. 外傷時の救急対応③、緊急時の救命処置①
9. 緊急時の救命処置②
10. 緊急時の救命処置③
11. 内科疾患の救急処置①
12. 内科疾患の救急処置②
13. 内科疾患の救急処置③、現場における救急処置①
14. 現場における救急処置②
15. 現場における救急処置③

#### 成績の評価

定期試験（40%）、レポート（60%）によって評価する。

#### 自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。特に事前にテキストを読んでもらうこと。

#### 履修上の注意

本科目は、(財)日本体育協会公認アスレティックトレーナーの対応科目である。受験対象となる者については、遅刻・欠席は原則的に認められないので、注意すること。

#### テキスト

「日本体育協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 救急処置」(日本体育協会)

#### オフィスアワー

月曜～木曜日

12:10～13:10、16:20～17:00

実習等で学外に出ている場合もあるので、あらかじめアポイントメントを取ること。また学生が多く来室するため相談内容によっては別日程で時間を確保するので申し出ること。

#### 研究室・授業用E-mail

研究・診療棟 4階 415研究室

yumiko@kansai.ac.jp

講義コード	3A434011
講義名	スポーツ医学Ⅲ
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
科目分類・分野名	専門基礎
科目ナンバリング	A3-2117
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 中堀 千香子	指定なし

#### 担当教員

増田 研一

#### 目的

グルメブームとともに生活習慣病が増加し、その後、食と健康や安全性の重要さが広く認識されるようになった。  
 このような現代社会において求められる「健康的な食生活のあり方」の実践力を身につける。  
 また、スポーツを行うことにより健康を維持、亢進しようとする試みがある。一方競技スポーツを行うためには様々な障害が発生する。このようにスポーツと健康には二面性がある。本講義では教科書的な内容を理解すると同時に、豊富な事例を示しながらスポーツ現場に即した授業を行う。

#### 到達目標

アスリートに見られる生理学的特性と内臓器官の疾患を理解し、特殊環境や性差、年齢により特に注意が必要な症例について学ぶ。またアスリートの食事計画の考え方、栄養欠陥による問題点を理解する。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. スポーツと循環器系疾患
2. スポーツと呼吸器系疾患
3. スポーツと消化器系疾患
4. スポーツと血液疾患
5. スポーツと腎・泌尿器疾患
6. スポーツと代謝性疾患
7. 特殊環境下のスポーツ医学①高圧・低圧環境
8. 特殊環境下のスポーツ医学②高音・低温環境、時差
9. アスリートにおける病的現象①突然死
10. アスリートにおける病的現象②食物アレルギー
11. 発育期・女性スポーツの注意点
12. ドーピングコントロール
13. アスリートの食事計画/身体組成
14. アスリートの水分補給
15. 栄養欠陥に基づく疾病と対策

#### 成績の評価

前期試験期間中にマークシート形式で試験を行います（日本体育協会アスレティックトレーナー

試験の練習も兼ねる)。その他、加点対象としての課題等を与える場合がある。

#### 自己学習

授業1コマにつき0.5コマ(45分)相当の予習と復習を行なうこと。授業の内容は各種現場実習の内容ともオーバーラップするので、自発的/積極的に予習と復習を行なうこと。

#### 履修上の注意

本科目は、(財)日本体育協会公認アスレティックトレーナーの対応科目である。従って遅刻/欠席は認められておらず、受験が認められなくなるので十分注意すること。

#### テキスト

「日本体育協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト④」(日本体育協会)

「日本体育協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑨」(日本体育協会)

講義コード	3A435011
講義名	スポーツリハビリテーションII
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
科目分類・分野名	専門基礎
科目ナンバリング	A3-3007
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 中尾 哲也	指定なし

#### 目的

さまざまなスポーツ傷害におけるリスクを把握し、競技復帰に向けた検査測定からリハビリテーションプログラム立案を行う。

#### 到達目標

教科書に書かれてある項目、内容について理解する。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. アスレティックリハビリテーションの考え方
2. 運動療法の基礎知識
3. 運動療法の基礎知識
4. 物理療法と補装具の使用に関する基礎知識
5. 物理療法と補装具の使用に関する基礎知識
6. リスク管理にもとづいたリハ・プログラミング (体幹)
7. リスク管理にもとづいたリハ・プログラミング (体幹)
8. リスク管理にもとづいたリハ・プログラミング (体幹)
9. リスク管理にもとづいたリハ・プログラミング (上肢)
10. リスク管理にもとづいたリハ・プログラミング (上肢)
11. リスク管理にもとづいたリハ・プログラミング (上肢)
12. リスク管理にもとづいたリハ・プログラミング (下肢)
13. リスク管理にもとづいたリハ・プログラミング (下肢)
14. リスク管理にもとづいたリハ・プログラミング (下肢)
15. リスク管理にもとづいたリハ・プログラミング (下肢)
16. リスク管理にもとづいたリハ・プログラミング (下肢)
17. 競技種特性にもとづいたリハ・プログラミング
18. 競技種特性にもとづいたリハ・プログラミング
19. 競技種特性にもとづいたリハ・プログラミング
20. 競技種特性にもとづいたリハ・プログラミング
21. 競技種特性にもとづいたリハ・プログラミング
22. 競技種特性にもとづいたリハ・プログラミング
23. 競技種特性にもとづいたリハ・プログラミング
24. 競技種特性にもとづいたリハ・プログラミング
25. 競技種特性にもとづいたリハ・プログラミング
26. 競技種特性にもとづいたリハ・プログラミング
27. 競技種特性にもとづいたリハ・プログラミング



- 28. 競技種特性にもとづいたリハ・プログラミング
- 29. 競技種特性にもとづいたリハ・プログラミング
- 30. 競技種特性にもとづいたリハ・プログラミング

#### 成績の評価

教科書内の発表担当部分の発表の仕方や内容、仲間で助け合って作成した問題に対する点数で評価する。

採点配分は、発表50%と自作試験50%とする。

#### 履修上の注意

「日本体育協会公認アスレティックトレーナー」を受験する学生は、当科目を履修しなければならない。

#### テキスト

「公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑦ アスレティックリハビリテーション」  
(日本体育協会)

#### 参考資料

「公認アスレティックトレーナー 専門科目テキストワークブック アスレティックリハビリテーション」  
(文光堂)、「公認アスレティックトレーナー 専門科目テキストワークブック検査・測定と評価」  
(文光堂)、「新・徒手筋力検査法」 (協同医書出版社)

#### オフィスアワー

月～木曜日 12:30～13:00

#### 研究室・授業用E-mail

研究室： 4号館7階 D719      E-mail： nakao@kansai.ac.jp

講義コード	3A436011
講義名	伝統鍼灸学Ⅰ（澤田流）
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A3-2402
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 大谷 泰弘	指定なし

#### 目的

「気」は鍼灸医学における最も重要な概念である。伝統的な鍼灸治療では、「気」の働きを指標として病気の診断と治療が行われる。本講義では、この「気」の臨床について澤田流治療法より学ぶことを目的とする。

#### 到達目標

テキストの「鍼灸真髓」は澤田健(澤田流創始者)の臨床を伝える唯一の書で、日本鍼灸界におけるバイブル的存在でもある。しかし、昭和初期の臨床について語られているため難解なところが多い。

本講義では、今日的な視点から本書を読み解きながら、澤田流鍼灸治療の真髓を紹介したい。ついでには、本書に対して自己研究可能なレベルに到達し、将来において活用できるようになることを期待する。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. 東洋医学の優位性－温める治療と自然治癒力
2. 澤田流鍼灸治療のダイジェスト
3. 臓腑について－肝・脾・腎・三焦
4. 経絡について－十二正経と奇経八脈
5. 気について－原気と衛気
6. 診察法について－五行色体表と四診
7. 治療法について－本治法と標治法
8. 澤田流鍼灸道の根本概念
9. 肩凝りと澤田流特効穴
10. 頭痛と澤田流特効穴
11. 寒によって傷められる病証(傷寒)と澤田流特効穴
12. 冷えて痛む病証①(寒痺証と心痺証)と澤田流特効穴
13. 冷えて痛む病証②(疝気と癰聚)と澤田流特効穴
14. その他の痛みと澤田流特効穴
15. 『鍼灸真髓』の読み方－知識を臨床へとつなげるヒントを探す

#### 成績の評価

定期試験で評価する。

#### 自己学習

授業1コマにつき2コマ(90分)相当の予習と復習を行うこと。

- ①講義で学習した「鍼灸真髓」の箇所は後で全文精読する。

②参考文献「鍼灸治療基礎学」で学習内容の補強をする。

③参考文献「東洋医学概論」で基礎知識の予習をする。

#### 履修上の注意

参考資料(主にA4サイズ)を随時配布しますので、整理のためのファイルを各自準備して下さい。

#### テキスト

「鍼灸真髓」 (医道の日本社)

#### 参考資料

「鍼灸治療基礎学」(医道の日本社)

「東洋医学概論」(医道の日本社)

#### オフィスアワー

講義終了後、10分間。

講義コード	3A437011
講義名	トリガーポイント概論
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A3-2404
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 黒岩 共一	指定なし

#### 目的

運動器疼痛、めまい、頭痛の治療、転倒予防に於けるトリガーポイント療法の役割を理解し、トラベル後の科学化されたトリガーポイントの諸概念、推定されるトリガーポイントの実体などについて学ぶ。

#### 到達目標

運動器疼痛治療においてトリガーポイント療法がなぜ必要なのか、トリガーポイント療法の適応とその治療戦略を理解する。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. トリガーポイント治療の歴史とTPワールドの鳥瞰図
2. TPの科学哲学
3. 関連痛は多感覚で生じる位置の錯覚
4. 動的関連痛と静的関連痛
5. TPの痛みの8割：運動器慢性痛
6. TPの痛みの2割：混合痛、CRPS
7. 受容器感作が示唆するTP療法の展開
8. 「そこ、そこ」は発生源認知
9. 再現された痛みは同一性認知
10. 刺激療法はコリ対策が前提
11. TP治療の科学的デザイン
12. 東洋的だと見えてこない鍼・灸・マッサージの違い
13. TPを捜す1：Travell法では捜せない
14. TPを捜す2：特徴が指標なら捜せる
15. まとめ

#### 成績の評価

定期試験100%

#### 自己学習

授業1コマにつき2コマ(180分)相当の予習と復習を行うこと。

授業の最後/配布プリントで次回授業のキーワードを提示するので、参考文献、インターネットで調べておく(予習)。講義で意味を理解し損ねた用語を予習と同様に調べ、配布プリントに書き入れる。

#### テキスト

#### 配布プリント

#### 参考資料

「MIT認知科学大事典」(協立出版)  
「ヒルガードの心理学」(金剛出版)

オフィスアワー

水曜日 12:30-13:00

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟3階 306研究室・kuroiwa@kansai.ac.jp

講義コード	3A438011
講義名	経穴・臓象学
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A3-2405
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 川本 正純	指定なし

#### 目的

3年前期までに学修してきた東洋医学概論・経絡経穴概論を復習し、さらに臓腑の持つ性質とその働き（臓象）及び五行説に基づいた他臓腑との関わり、また経絡・経別・経筋・奇経の各論を学修する。

#### 到達目標

学修した各事項をもとに、古典に記載された症候に対する経穴の選穴理由を弁証できるようになる。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. 臓象について (1)
2. 臓象について (2)
3. 臓象について (3)
4. 臓象と陰陽論・五行説 (1)
5. 臓象と陰陽論・五行説 (2)
6. 臓象と陰陽論・五行説 (3)
7. 是動・所生につて (1)
8. 是動・所生につて (2)
9. 経間関係と臨床応用例 (1)
10. 経間関係と臨床応用例 (2)
11. 常経の要穴の運用方法
12. 経筋・経別・奇経について
13. 奇経の運用方法
14. 素問【刺腰痛篇】の経穴について
15. 胃腸症状への配穴弁証

#### 成績の評価

定期試験で評価する。

#### 自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。

#### テキスト

必要に応じてプリントを配布する。

#### 参考資料

「東洋医学概論」 (医道の日本社)

「経絡経穴概論」 (医道の日本社)

オフィスアワー

木曜日 12:30~13:00

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟3F 302研究室・kawamoto@kansai.ac.jp

講義コード	3A439011
講義名	運動器の触察法
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A3-2609
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 田淵 香緒利	指定なし

#### 目的

運動器由来の疼痛への対処はその発生源の探知が必要不可欠である。疼痛の発生源を特定するには運動器の三次元的な位置関係の把握が必要となる。本講義では、重なり合う骨、筋、腱、靭帯の奥深くまで指を押し入れてそれらを触知する方法、直接的な触知が難しい筋の起始、停止部については骨指標を用いてこれを推定し、体表投影する方法について学び、実習する。

#### 到達目標

運動器の体表投影図が描けるようになる。

#### 授業計画表

#### 授業計画

- 第1回 触察描画の基礎 膝部の骨構成と骨指標について
- 第2回 膝部及び股関節部の骨構成と体表投影図描画実習
- 第3回 大腿直筋の触知法と体表投影図描画実習
- 第4回 縫工筋の触知法と体表投影図描画実習
- 第5回 内側広筋の触知法と体表投影図描画実習
- 第6回 外間広筋の触知法と体表投影図描画実習
- 第7回 中間広筋の触知法と体表投影図描画実習
- 第8回 第一回実技テスト
- 第9回 大腿二頭筋の触知法と体表投影図描画実習
- 第10回 半腱様筋の触知法と体表投影図描画実習
- 第11回 半膜様筋の触知法と体表投影図描画実習
- 第12回 膝窩筋の触知法と体表投影図描画実習
- 第13回 大内転筋の触知法と体表投影図描画実習
- 第14回 第二回実技テスト
- 第15回 復習

#### 成績の評価

実技テスト(体表投影図の描画)100%

#### 自己学習

授業1コマにつき0.5コマ(45分)相当の予習と復習を行なうこと。特に実習範囲の解剖学、運動学を復習・整理すること。

#### テキスト

「プロメテウス解剖学アトラスー解剖学総論 運動器系第3版」(医学書院)

#### 参考資料



1. 「骨格筋の形と触察法」 (大峰閣)
2. 「運動療法のための機能解剖学的触診技術 下肢・体幹」 (メジカルビュー社)
3. 「触診機能解剖カラーアトラス 下」 (文光堂)

講義コード	3A440011
講義名	スポーツ鍼灸治療Ⅰ
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A3-2612
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 松浦 穰士	指定なし

#### 目的

スポーツ選手、スポーツ愛好家の疲労の回復ならびにスポーツ障害・外傷の予防と治療、回復による競技パフォーマンスの向上を目的とした鍼灸治療の技術を習得する。  
また、スポーツ現場で現在活躍する先生に来て頂き、特別講義をしていただく予定です。

#### 到達目標

正確にスポーツ障害の評価を行えること、予防法、応急処置の方法などを一般のスポーツ選手に説明できることを目標とする。そして最終の目標は、その障害に対し鍼灸治療でいかに改善させるかを到達目標とする。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. ガイダンス、鍼灸治療の基本
2. 足関節捻挫に対する鍼灸治療
3. 下腿内側（シスプリット）に対する鍼灸治療
4. 下腿後面（アキレス腱炎）に対する鍼灸治療
5. 特別講義
6. 膝関節部障害に対する鍼灸治療
7. 大腿部の障害に対する鍼灸治療
8. 股関節・殿部の障害に対する鍼灸治療
9. 特別講義
10. 手関節障害に対する鍼灸治療
11. 肘関節障害に対する鍼灸治療
12. 肩関節の障害に対する鍼灸治療
13. 腰部障害に対する鍼灸治療
14. 頸部障害に対する鍼灸治療
15. 本治法の考え方

#### 成績の評価

筆記試験100%

#### 自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当について、スポーツ障害を理解する上で必要な筋肉・骨・靭帯の解剖や、東洋医学的知識である経絡や経穴（特に要穴）などの予習・復習を行なうこと。

#### 履修上の注意

実習時間は限られていますので、訓練する技術は、その時間内に習得するように心がけて下さ

い。指示以外の施術はしてはいけません。またお互いが被術者になりますので、実習部位への鍼灸治療が可能な服装を心掛けてください。

#### テキスト

「スポーツマッサージ」(KATA実技指導員著)

#### 参考資料

「スポーツ東洋療法ハンドブック」(医道の日本社)

#### オフィスアワー

水曜日 12:30～13:00

講義コード	3A539011
講義名	スポーツと栄養
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
科目分類・分野名	専門基礎
科目ナンバリング	A3-2118
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 岡村 浩嗣	指定なし

#### 目的

スポーツにおける食事・栄養摂取の重要性について理解し、競技特性の異なるアスリートの日常的な栄養ケアができるようにする。また、栄養欠陥による疾病の予防や様々なトレーニング状況に応じた栄養ケアができるようにする。さらに、サプリメントについて理解し、スポーツ栄養士や管理栄養士と連携した栄養ケアができるようにする。

#### 到達目標

1.アスリートにおける栄養・食事摂取の意義を理解できるようになる。2.トレーニングプログラムや競技特性と関連づけた食事のあり方を理解し、日常的な栄養ケアができるようになる。3.栄養欠陥に基づく疾病の知識を学び、その対策を講じることができるようになる。4.合宿・遠征などの特殊環境下における栄養ケアができるようになる。5.サプリメントについて理解し、アスリートに対する管理ができるようになる。6.スポーツ栄養士や管理栄養士との連携ができるようになる。

#### 授業計画表

#### 授業計画

- 1.スポーツ栄養サポートとは
- 2.アスリートの身体組成
- 3.からだ作りとウエイトコントロール
- 4.日本食とスポーツ栄養
- 5.スポーツ栄養と炭水化物・脂質
- 6.スポーツ栄養とたんぱく質
- 7.スポーツ栄養とビタミン・ミネラル
- 8.トレーニングスケジュールと食事
- 9.競技特性と食事
- 10.コンディショニングと栄養摂取
- 11.水分補給・スポーツドリンクの科学
- 12.栄養欠陥に基づく疾病と対策
- 13.特殊環境下における栄養ケア
- 14.サプリメントの利用時の留意点
- 15.アスリートの栄養教育

#### 成績の評価

レポート80%、授業への取り組み度20%

#### 自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。特にテキストを予習しておくこと。

と。

#### 履修上の注意

日本体育協会公認アスレティックトレーナーに対応した科目である。

スポーツをする人の栄養・食事について知りたいことや疑問に思うことなどをまとめておき、講義をとおして解決・確認するようにする。

#### テキスト

「日本体育協会公認アスレティックトレーナーテキスト」（日本体育協会）